

## 第 105 回日本精神神経学会総会

## シンポジウム

## 自閉症スペクトラム障害の社会性障害の病態と治療的展開

コーディネーター 丹羽 真一, 油井 邦雄

1980年代から、社会的相互性とコミュニケーションの障害および限定的で反復的な行動と関心を中核症状とする広汎性発達障害を自閉症スペクトラム障害と呼んでいる。本邦の発現頻度はこの20年で11倍になったという。本邦での発現頻度は1.8%程度とされるが、実勢としては高機能症例を含めると10%近い。本邦では4年前から自閉症スペクトラム障害を含む発達障害について個別の学習と適応訓練を目的とした特別支援教育が行われ、今ではほとんどの小、中学校で何らかの特別支援教育を行っている。すなわち、世の中が発達障害の児童、生徒の適応能力を高める方法に相当のスピードで動いている。自閉症スペクトラム障害はもはや、特殊な稀にみる疾患ではなくなっている。したがって、精神科診療でも診断や病理・病態、治療について一定レベルの知識と診療能力を備える必要がある。

自閉症スペクトラム障害が脳の発達の障害であることはすでに周知でありながら、脳機能病態とそれに応じた医学的治療手段は遅々として進展していない。本障害を取り巻く最近の社会情勢から、本邦でも脳機能病態と医学的治療の検索を全国的に連携して行う必要がある。

この2つの理由からこのシンポジウムを設定した。シンポジストは発現要因、遺伝、画像所見、神経機能の調整に欠かせないアラキドン酸の役割、コミュニティケアの新しいシステムについて口演

した。5名のシンポジストから出てきた問題点と討論の要点は下記のとおりである。

- 1) 遺伝子の探索では、多数の症例を集めて解析しているが、明確な所見は得難い：これについては対象が多数であれば、中核的症例も辺縁群も含まれるので、明確な所見が得難い。症状の均質性に基づいた遺伝子解析が必要であろう。
- 2) functional MRI では狭い機器の中で検査を行うので、果たして社会性を検索できるであろうかという疑問が出された。これに対しては、課題を被験者の社会的認知、社会的イメージに結びつくものにすれば社会性を把握し得るであろう。危機、争い、拮抗などの状況を示す絵や動画と音声の提示によって、社会性障害の脳部位の機能を把握し得るであろう。
- 3) 神経発達指標は興味深いものだが、そのねらいはどこにあるのかという質問がシンポジストから出た。これに対しては、口演したシンポジスト（油井）から「自閉症スペクトラム障害は情動記憶を司る扁桃体を中心とした扁桃体—海馬—側頭部—前内側前頭部の情報処理能力の狭小化を想定している。扁桃体説の発端になった Bauman と Kemper が提示したような発達遅延説を想定している。したがって、症状の改善に背景にニューロンネットワーク機能の改善、すなわち、neurogenesis,

myelination, synaptogenesisがあるだろうと想定して、今回は一部の指標を提示した。目下アラキドン酸の double-blind placebo-controlled study と並行して他の神経発達指標の血漿濃度も測定しているので、これらを合わせてこの仮説を検討してゆきたい」と説明された。

- 4) フロアーからの質問に対して、シンポジスト(仲神先生)から「我々は自閉症スペクトラム障害が生育環境によって生じるとは考えていない」という説明があった。

本邦では自閉症スペクトラム障害の診断手法が症状評価の国際的に通用する尺度が普及していない。Autism Diagnostic Interview - Revised (ADI-R), Autism Diagnostic Observation Schedule-Generic (ADOS-G) などの診断尺度や The Social Responsiveness Scale (SRS),

The Social Communication Questionnaire (SCQ) などの症状評価尺度の普及が望まれる。油井は Institute of Psychiatry (ロンドン) で ADI-R の使用許可を得たが、英国では難しいライセンスの取得は不必要だった。

自閉症スペクトラム障害は症状が改善し得ることを前提にして医学、医療も前向きに対処してゆく時期に来ていると感じる。最近、私達は発達障害の医学的研究に携わっている精神医学、小児科学、画像解析などの専門家の賛同を得て「発達障害の病態と治療研究ネットワーク」を全国レベルで立ち上げた。本学会開催期間中に第2回の研究集会を開催した。ここでは、「社会性」とは何かを検討された。次回は日本生物学的精神医学会の期間中に開催予定であるが、関心がおありの方は油井 (yui16@bell.ocn.ne.jp) へご連絡いただきたい。